

新飯能

発行
日本共産党
飯能市委員会
973-1091

金子とし江
090-7265-1601
山田とし子
090-4389-4439
新井たくみ
090-4010-5650
滝沢おさむ
090-7000-4481

<議員団の連絡先>
973-2111(市役所456)
Mail jcp-sigi@pluto.plala.or.jp

新しい交通計画を検討したい

12月議会で初めて答弁

日本共産党は昨年、23年度からの総合振興計画・後期計画策定にあたって、職員体制をとって総合的な交通政策を位置付けるよう提案しました。また、山間部や精明地域などの「足の確保」の重要性を議会ごとに取りあげるとともに、国際興業バスの撤退問題では、名栗・原市場、浅間、平松地域などでアンケート調査も行ってきました。



12月議会では、滝沢おさむ、新井たくみ両市議が、公共交通問題をとりあげ、行政と住民、交通関係機関などが一堂に会した協議会

新たな交通システム構築にむけて

滝沢市議が、「新たな交通システムを検討する協議会の設置を」と求めたのに対して、市民生活部長は、国際興業バスが飯能営業所からの撤退表明を受け、「来年度から交通計画の策定について具体的に進めていきたい。計

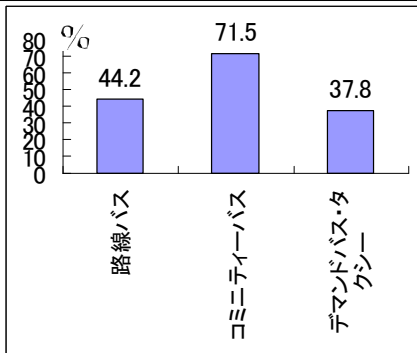
画を策定する際は、市だけではなく、事業者や利用者を含めた協議が必要である。多くの方に係わっていただいてきちつとした交通体系をつくるべく事業を進めて行きたい」と初めて明らかにしました。

新井市議は、「唯一の公共交通機関であるバスが撤退したら、生活できなくなる名栗、原市場、南高麗は勿論、精明地区を含めた市街地、電車はあっても駅まで遠い両吾野地区などを含めた全市の交通体系の検討が必要。協議会には、幅広い市民を入れ、市街地の活性化にもつながるような交通システムの検討

を」と求めました。

2名の職員を配置

飯能市では、12月1日付けで、市民生活部に、交通政策担当の職員を2名配置し、早速調査や計画の準備に入りました。



全国の自治体では

交通協議会を設置している自治体は全国で

特別展飯能戦争

飯能市郷土館にて

飯能市郷土館で10月16日から12月11日まで、特別展飯能戦争「飯能炎上―明治維新・激動の6日間」が開かれています。来館者は市内だけでなく沢山の方が訪れています。

郷土館の学芸員さんたちが、各地で自治体史編さん事業を取り組

日本共産党を支える 年末募金のお願い

日本共産党へのご支援、ご協力ありがとうございます。日本共産党は、東日本大震災で募金活動や、ボランティアの派遣など全力で取り組んできました。予想される総選挙と1年4ヶ月後の市議選にむけて準備を開始しました。つきましては、新飯能(週報、号外)の発行など宣伝を旺盛にすすめるために、活動支援募金をお願いします。

集金時にお寄せ頂ければ幸いです。

460、埼玉県では18自治体。コミュニティバスを運行している自治体は48市町、デマンド交通を実施しているのは5自治体で住民の「足の確保」を図っています。

維新の際、慶応4年(1868年)旧江戸幕府方と明治新政府方との戦い(戊辰戦争)の一コマとなった飯能でのたった6日間の戦争のことです。

飯能戦争によって、飯能の「町」では民家200戸、寺院6ヶ所が焼失したこと。また、戦争に使われた武器や、振武軍等と新政府軍の人物、振武軍と飯能の人たちのかかわりなど今までにない奥深い内容になっているとのこと。郷土館の皆さんの努力が伝わってきました。

本年度末には史料集を刊行したいということです。

波 紋

この原稿を書いている今日12月8日は1941年のアジア太平洋戦争開戦の日です。俳人の加藤楸邨は「十二月八日の霜の屋簷を渡る」橋本夢道は「大戦起こるこの日のために獄たまわる」という句をのこしています。一方は戦争に一步距離を置き日本に行く末を案じ、一方は戦争そのものを鋭く告発しています▼昨日の「赤旗」で根本敬上智大学教授は多くの日本人が真珠湾攻撃で「太平洋戦争」が始まったとおもっているがそうではない、実際には真珠湾攻撃の約65分前に陸軍はマレー半島のコタバルに侵攻していたのであり、ここにこの戦争が東南アジア全面侵攻を目的にしたものであることが象徴されていると書いています▼「あなたは勝つものと思つておりましたかと老いたる妻のさびしげにいふ」は敗戦直後の土岐善麿の歌です。そうした自嘲や反省を繰り返さないために平和を築く決意をあらたにしなればと思います。

精明、双柳地域の「足の確保」を

滝沢おさむ市議の一般質問



「人もいます」と切実な声が寄せられている。市としてはどの様に受け止めているのか。

市民生活部長 双柳、精明全体の問題として

国際興業バスが新光行き、市営住宅行きを運行しており、また、西武バスも利用者が少ないことから、土日祝日1便の運行になっており、これは大変な事と認識をしている。今後、市西部の山間地の交通問題と合わせて交通体系、交通計画について検討をしていかなければならないと考えている。

国際興業バスが飯能営業所から撤退するとの方向が示されました。また、西武バスの飯能駅北口から狭山市駅西口行、下川崎経由は土日祝日1便のみの運行となり、精明や双柳地域では、住民の移動手段は公共交通がほとんど使えない状況です。早急に解消に向けて施策を講じるよう求めました。

滝沢 私はこの地域で「交通問題」アンケートを実施した。その中で、「もし、バスが廃止されたら老人は何の楽しみもなくなくなる。バスがあれば市役所、銀行、郵便局に人が集まるのに、健康診断も交通の便が悪いかから行かないとい

施設、商店街への買い物など利用は十分考えられる。この地域はオンデマンド交通を導入しやすい場所と思うが検討してほしい。

市民生活部長 飯能市の交通体系を整理し市に適した交通計画を

具体的に検討するため、今後新たな組織体制をつくり、先進事例を調べることなどを進めて行きたい。

協議会を立ち上げ、具体的な検討を

滝沢 地域住民の二

ズ、事業者間が競合せず相互に利便性、利益性を高める点や、また、市の考え方など、十分に協議して地域住民の交通確保に取り組んでいく事が今こそ求められているのではないかと。積極的な対応を求める。

市民生活部長 来年度から交通計画の策定

について具体的に進めていきたいと考えています。きちつとした交通体系をつくるべく事業を進めて行きたいと考えています。

国保税の引き下げを

山田とし子市議の一般質問



飯能市は、国保税を22年4月から一人あたり約8500円値上げしました。理由は、一般会計から国保特別会計への繰り入れが、21年

度は5億7千万円にもなり、これ以上の繰り入れはできないということでした。

山田 23年度の当初予算では一般会計からの繰入額は約4億8000万円だった。ところが、22年度決算で6億6000万円の繰越金が出たため、9月議会では4億0530万円、更に、12議会で7488万円

飯能市は、国保税を22年4月から一人あたり約8500円値上げしました。理由は、一般会計から国保特別会計への繰り入れが、21年

度を5億7千万円にもなり、これ以上の繰り入れはできないということでした。

を一般会計に戻した。つまり一般会計からの繰入額は0円で、さらに支払い基金積み立て金として1億8865万円の積み増しを行なった。この経過からしても、値上げ前に戻すことは充分可能であるし、むしろ引き下げの方向で検討すること。

健康推進部長 理想

は一般会計からの赤字補填はないほうが望ましいと考える。22年度、経済状況が悪化している中で税率改正を行っている中で

住民の意向を尊重して見直しを

山田 10月の説明会で、踏切から郵便局の交差点までの北側に2.5mの歩道整備をすると説明した。しかし、市民から「3.5mが必要だというのになぜ2.5mの片側だけなのか。両側に歩道を整備すべき」「市長は何故出席しないのか？事業の旗振り役のトップがどういう街にしたいのか、ビジョンが見えない中では納得もできないし協力できない。こういうことではないか。」など批判、

意見が噴出。住民は理解も、納得していないと言っている。時間がかかっても充分に住民の意向を聞くこと、住民の意向を尊重した見直しを図るべきではないか。

建設部参事 現地の状況を詳細に把握するために測量の実施をお願いした。概ねの了解が得られたとの判断から、測量に着手させていた

今後、測量図にもとづいて地権者と充分話し合いをしていく。